運転寿命延伸プロジェクト・コンソーシアム

趣意書

国立研究開発法人
国立長寿医療研究センター
National Center for Geriatrics and Gerontology

Contents

❶ 設立趣意 …… P1

❷ 運転寿命延伸プロジェクトに至る経緯 …… P2

❸ 開発したプログラムの効果検証と今後の展望 …… P3

❹ コンソーシアムの研究会活動の進め方 …… P4

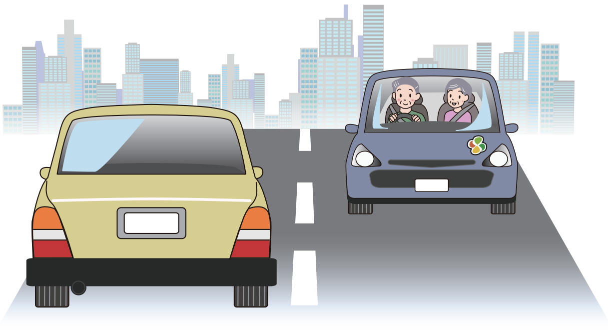
❺ 組織間の関係 …… P5

❻ 社会実装の例 …… P6

❼ 運営委員 …… P7

❽ 会員種別と年会費 …… P8

❾ 会員の特典 …… P9



1 設立趣意

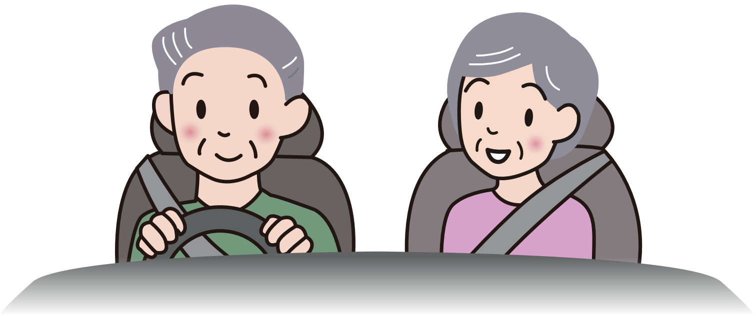
『運転寿命延伸プロジェクト・コンソーシアム』

　高齢者が起こす重大な自動車事故の事故全体に占める割合が増加しており、それに対応するため認知症高齢者に対する免許取り消しの体制が先の道路交通法改正にて整えられました。ただし、これは認知機能が著しく低下した者への対処であり、それ以外の高齢者に対して安全運転を継続するためのシステムは整備されていません。高齢者が安全に運転を継続するためのソリューションを創出して、政策や商品としてサービスを整える必要があると考えられます。

　本コンソーシアムでは、高齢者が安全に運転することが可能な期間（運転寿命）を延伸するためのプログラムの効果検証や大規模データの分析を実施し、これらの知見に関する情報交換の場を設け、産学官連携による『高齢者が安全に運転可能な自動車』や『関連装備』、『安全運転トレーニングプログラム』、『新たな保険商品開発』等を推進し、高齢者の運転寿命延伸のためのソリューションの創出を目指しています。

　国立長寿医療研究センターは、この目標を達成するための調査研究のフィールドを整備し、そこで多様な研究開発が可能なプラットフォームを提供します。また、コンソーシアム内のネットワークを構築して情報交換を促進し、共同研究が推進するようコーディネーター役を担ってまいります。

　趣旨をご理解の上、多くの皆様が本コンソーシアムへご参加いただき、運営にご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

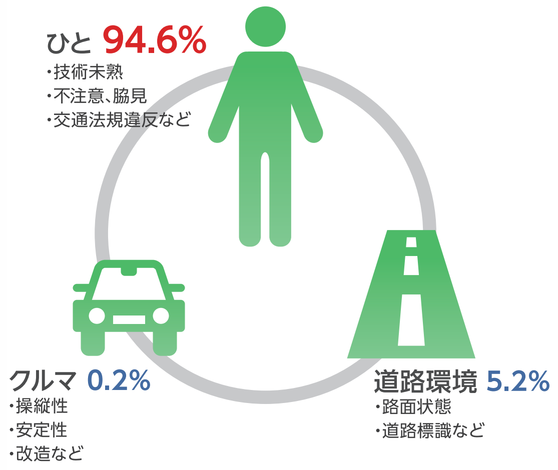


2 運転寿命延伸プロジェクトに至る経緯

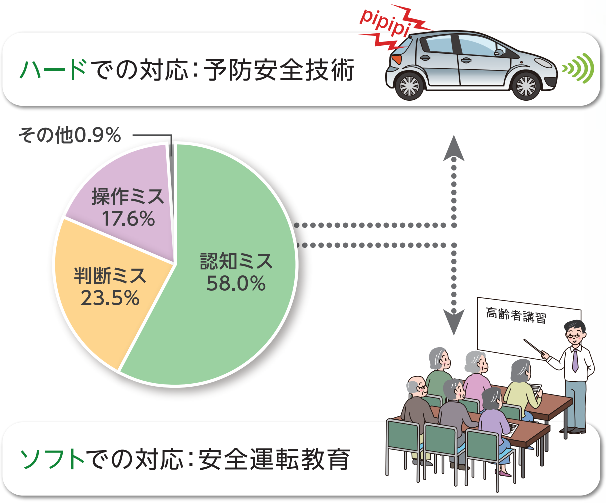
交通事故の原因

交通事故の原因は運転者に起因する割合が極めて高く、「人」的エラーをどのように防ぐかが、事故予防のための最重要課題です。とくに認知ミスをいかに減少するかが重要で、安全運転教育の充実と危険に対応できる自動車の開発が必要です。

交通事故の3つの要素



「人」的エラーの分類と構成



出典：ITARDA（交通事故総合分析センター）資料より作成

安全運転教育

現在、既存の安全運転教育の1つとして、70歳以上の方が運転免許更新時に受ける高齢者講習があります。高齢者講習では、主に①加齢に伴う身体機能の変化や地域における交通事故の実態、高齢者の交通事故の特徴と防止策等についての講義、②動体視力、夜間視力や水平方向の視野の範囲の測定、③自動車学校内を実際に運転し、指導員から助言を受けるといった内容を行います。

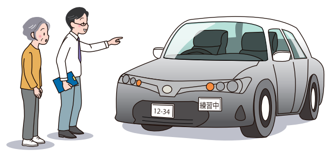
今後、高齢者の事故をさらに減少させていくためには、より効果的な安全運転教育のプログラムを開発し、効果検証を行うことが必要ですが、今までのところ検討されていない状況です。

そこで、国立長寿医療研究センターで
新しい安全運転プログラムを開発しました。

開発したプログラムの内容

〈実車トレーニング〉

実際に車に乗って運転することや、死角の確認など安全運転に特化した内容です。

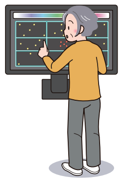


〈ドライブシミュレーター トレーニング〉

運転時におけるさまざまな危険を予測し回避できるようにします。

〈ビジョントレーニング〉

動体視力など運転に必要な視覚機能を鍛えます。

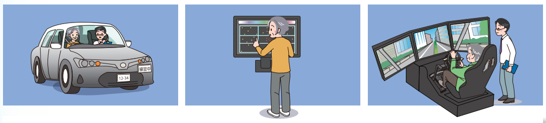


3 開発したプログラムの効果検証と今後の展望

プログラムの効果検証の方法

160名の軽度認知障害(MCI)を有する高齢者を対象として開発したプログラム(実車トレーニング、ドライブシミュレーターとビジョントレーニング)が高齢者の安全運転技能の向上に有効であるかどうかを確かめるため、ランダム化比較試験を実施しました。

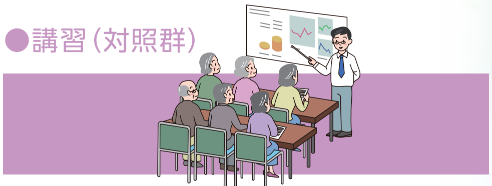
●開発したプログラム(介入群)



それぞれ週に1回ずつ実施(合計20回)

比較

●講習(対照群)



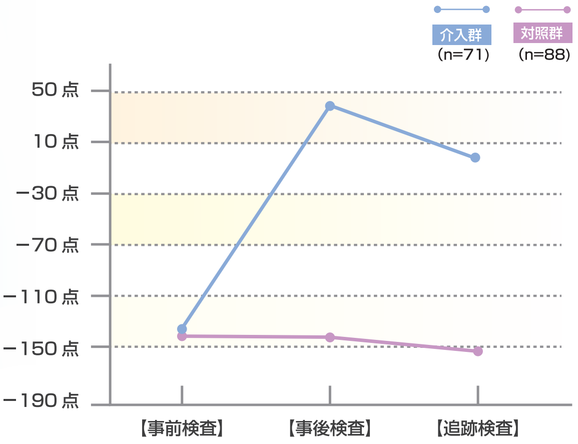
事後検査後に実施(1回)

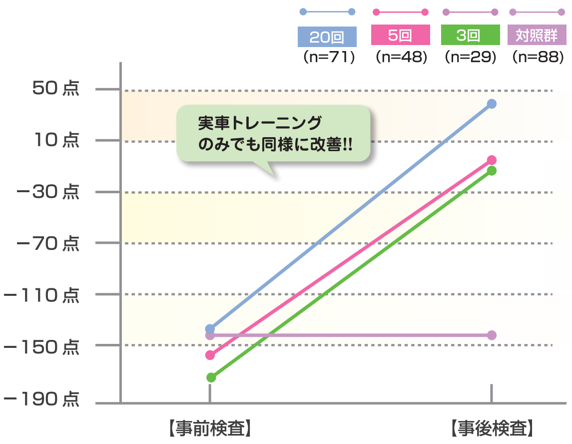
実車検査の合計得点(点数)の結果

3か月間、合計20回の開発したプログラム(実車トレーニング10回、ドライブシミュレーターとビジョントレーニング10回)を実施した結果、開発したプログラムを受けた方は、安全運転技能が有意に向上し、開発したプログラムを受けてから1年経過しても、安全運転の能力は保持できていることがわかりました。

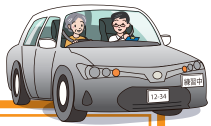
また、この効果は20回の開発したプログラムだけでなく、5回や3回の実車トレーニングのみでも同様に安全運転技能が改善しました。

自動車学校指導教官による標準的路上検査結果





本コンソーシアムにおける今後の展望



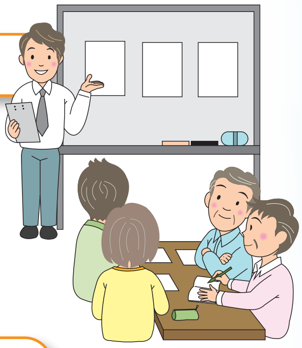
- ◉トレーニングによる即時的な運転技能の向上が、一般路上で遵守され、事故の抑制につながるのかを検証すること
- ◉トレーニングすべき高齢者を抽出するためのスクリーニングツールを開発すること
- ◉MCIを有する高齢者の運転特性を明らかにすること

4 コンソーシアムの研究会活動の進め方

01 会員へのアンケート実施

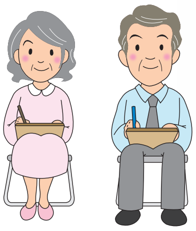
会員になっていただいた方々にアンケートを行い、関心のある分野、研究会の目的や、内容、中心者などをご提案いただき、コンソーシアムの運営委員会で検討を行います。

02 講演会、シンポジウム等の開催による検討



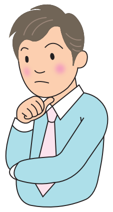
会員へのアンケート結果や、運営委員会議論などを踏まえ、
会員が参加する講演会やシンポジウムを企画してより議論を進めます。

03 研究会の立ち上げ



関心のある会員からの提案を受け、運営委員会の検討により、研究会の立ち上げを決定します。検討結果は、総会で報告します。

04 具体的な研究会の検討



今後、運転と関わる機能について、下記の新規研究会を立ち上げる予定です。

⇨ **運転寿命延伸プログラム検証研究会**　（主任：国立長寿医療研究センター 島田 裕之）

プログラムの効果検証をするため大規模集団を対象としたランダム化比較試験を実施する。

⇨ **運転適格性スクリーニングツール研究会**

運転適格性を判定するスクリーニングツールの開発と妥当性の検証を実施する。

「例」

⇨ **MCI高齢者運転特性研究会**

認知機能の低下した高齢者の運転特性を解明するための知見を集積する。

5 組織間の関係

国立長寿医療研究センター

運転寿命延伸プロジェクト・コンソーシアム

会員のアンケート実施・運営委員会など（企業・現場のニーズの共有）

情報/人材交流活動

- 講演会
- ワークショップ
- 現場見学会
- シンポジウム

研究会活動

様々なテーマによる各研究会を発足

運転寿命延伸プログラム検証研究会
運転適格性スクリーニングツール研究会
（例）MCI高齢者運転特性研究会　etc…

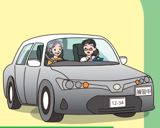
連携・協力	連 携	参 加	後 援
保険者・医療機関 介護機関・自治体	自動車学校 大学・学会	〈企業〉 自動車メーカー 自動車ディーラー トラック協会 損害・生命保険会社 銀行・信金・農協	警察庁 厚生労働省

テーマ導出・知見のフィードバック

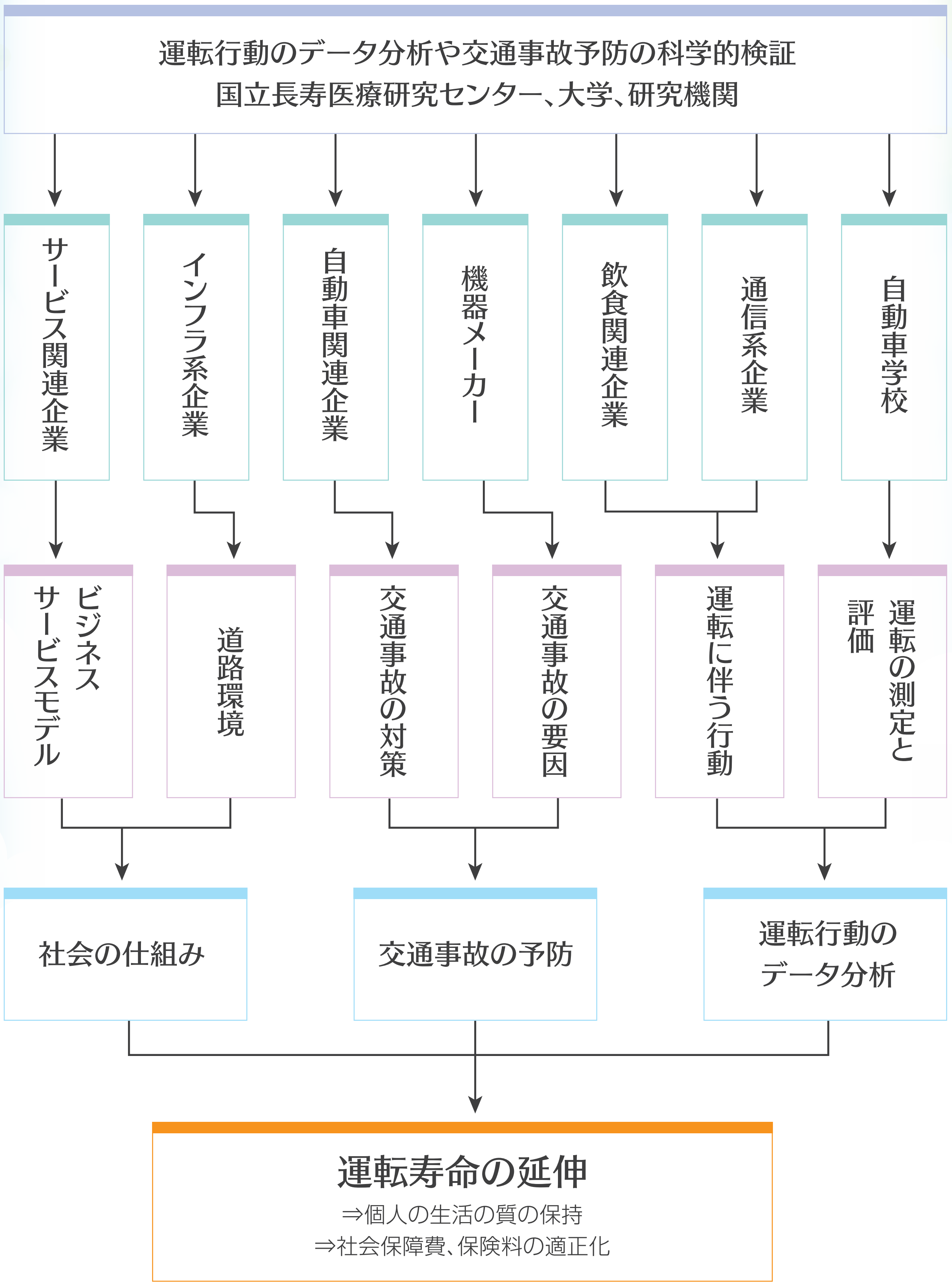
各企業の
独立事業への
発展

◎ 共同研究
◎ 地域実証事業
◎ 外部資金獲得

…▶ 社会実装



6 社会実装の例


運転行動のデータ分析や交通事故予防の科学的検証
国立長寿医療研究センター、大学、研究機関
サービス関連企業
インフラ系企業
自動車関連企業
機器メーカー
飲食関連企業
通信系企業
自動車学校
ビジネス サービスモデル
道路環境
交通事故の対策
交通事故の要因
運転に伴う行動
運転の測定と評価
社会の仕組み
交通事故の予防
運転行動のデータ分析
運転寿命の延伸
⇒個人の生活の質の保持
⇒社会保障費、保険料の適正化

7 運営委員

会長

島田　裕之	国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター センター長

副会長

小峰　秀彦	産業技術総合研究所 情報・人間工学領域研究戦略部 研究企画室 室長

理事（50音順）

荒井　秀典	国立長寿医療研究センター 理事長
池田　学	大阪大学大学院 医学系研究科精神医学教室 教授
石田　敏郎	早稲田大学 名誉教授
植村　公一	愛知県政策顧問、株式会社インデックスコンサルティング代表取締役社長
里見　隆治	参議院議員
小竹　元基	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 准教授
園原　和樹	桔梗ヶ原病院 病院長
福島　雅典	一般財団法人LHS研究所 代表理事
水口　敦志	損害保険ジャパン株式会社 常務執行役員
三村　將	慶應義塾大学 医学部精神・神経科学教室 教授
渡辺　恭良	理化学研究所 生命機能科学研究センター 健康・病態科学研究チーム チームリーダー

事務局長

石井　秀明	国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部 研究員

アドバイザー

鳥羽　研二	国立長寿医療研究センター 理事長特任補佐
岡本　努	警察大学校 交通教養部長

（2021年2月1日現在）

8 会員種別と年会費

団体会員

	定義 （第４条）	総会参加	議決権※1	会費等※2 （第14条）
		（第６条）		
法人会員	企業	○	○	1口 50万円 ※3
関係団体会員	※4	○	○	1口 5万円

※1 会費の口数に応じた議決権を行使できる。ただし、関係団体会員が行使できる議決権は最大10個とする
※2 会費は年会費であり、年度ごとに納めることとする
※3【プラチナ会員】：10口以上　【ゴールド会員】：5口以上　【シルバー会員】：2口以上　【ブロンズ会員】：1口以上
※4 保健、医療、医療･介護保険及び福祉に関する活動を行う団体並びに地方公共団体

個人会員

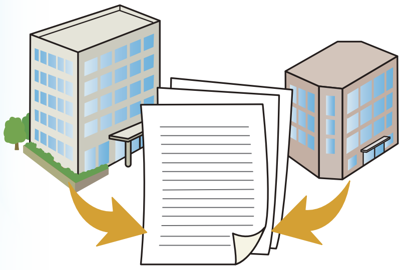
	定義 （第４条）	総会参加	議決権	会費等※5 （第14条）
		（第６条）		
公的機関 個人会員	※6	○	×	×
一般個人会員	上記以外	○	×	5千円

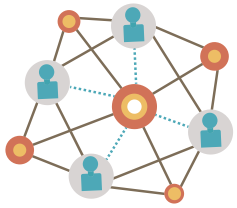
※5　会費は年会費であり、年度ごとに納めることとする
※6　国、地方公共団体、大学等の教育機関、公的医療機関及び公的研究機関に所属する個人

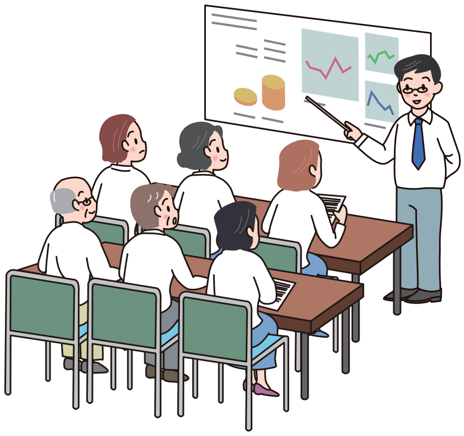
9 会員の特典

01 講演会、シンポジウム、研究会への参加

◎ 知見の収集
◎ 研究テーマの立案
◎ アカデミア、企業間での交流







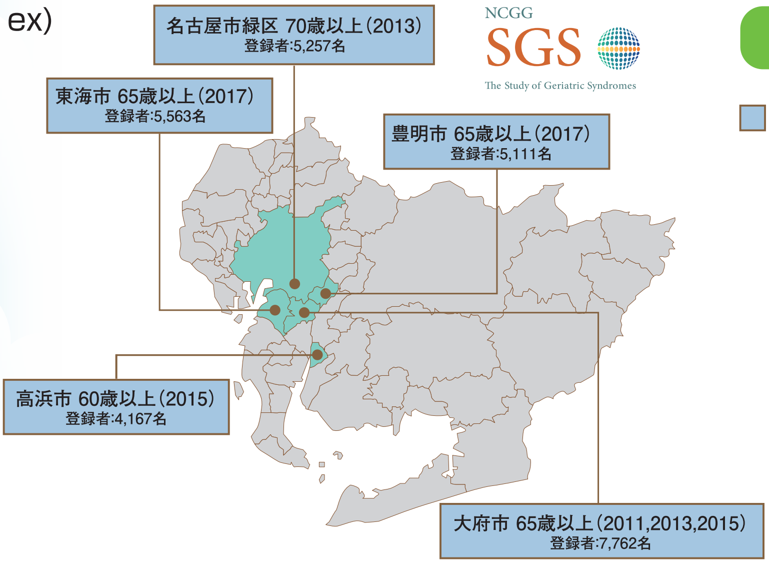
02 自社研究の対象者の募集とデータ活用

◎ 大規模コホートを活用して研究対象者のリクルート
◎ データベースを活用したデータ解析

・事前に国立長寿医療研究センターとの共同研究契約が必要
・データベースを活用したデータ解析を行う場合、プラチナ会員以上の会費が必要

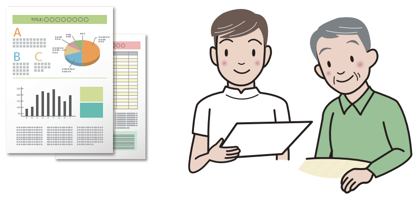
ex)

NCGG SGS The Study of Geriatric Syndromes



データベースの構築

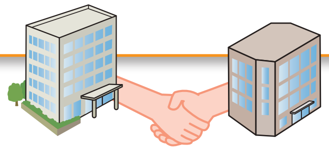
□ 登録対象
2018年まで:27,860名



データベース

03 共同研究の支援

◎ 研究機関と企業との共同研究支援を受けられる



04 理事の推薦

◎ プラチナ会員は同法人内から理事を一人推薦できる

高齢者が安心して運転を続けるための支援を
運転寿命延伸プロジェクト･コンソーシアム

■お問い合わせ

運転寿命延伸プロジェクト･コンソーシアム 事務局
〒474-8511　愛知県大府市森岡町七丁目430番地
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
Email: driving_consortium@ncgg.go.jp

▲
ホームページはコチラ